

# 防 除 情 報

長崎県病害虫防除所長

平成24年度病害虫発生予察防除情報第11号

## 大豆、野菜類、花き類のハスモンヨトウの防除対策について

ハスモンヨトウの発生が増加しています。今後、被害の増加が予想されますので下記の点に留意して防除指導をお願いします。

### 記

#### 1. 発生状況等

- (1) 大豆における8月下旬の巡回調査(9筆)の結果、幼虫の寄生株率は2.2%(平年12.2%)、株当たり虫数は0.7頭(平年0.8頭)と平年よりやや少なかったが(図1、図2)、白変葉発生圃場率は100%(平年47.4%)と高かった。
- (2) 大豆における8月6半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、幼虫の寄生株率は20.0%(平年12.0%)、株当たり虫数は0.18頭(平年0.53頭)と平年並であった。
- (3) いちご(育苗床)における8月下旬の巡回調査(26筆)の結果、食害株率は0.3%(平年2.3%)、食害発生圃場率は15.4%(平年37.3%)であった。
- (4) フェロモントラップ(諫早市)の誘殺量は、8月5~6半旬にかけて急増している(図3)。
- (5) 九州北部の向こう1か月の降水量は、平年より少ない見込みであり、本虫の発生に好適である。

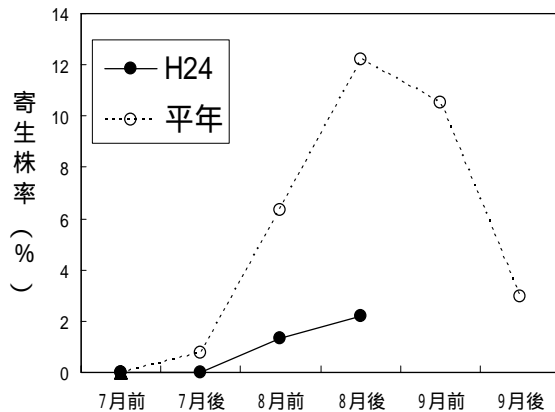


図1 大豆におけるハスモンヨトウの寄生株率の推移

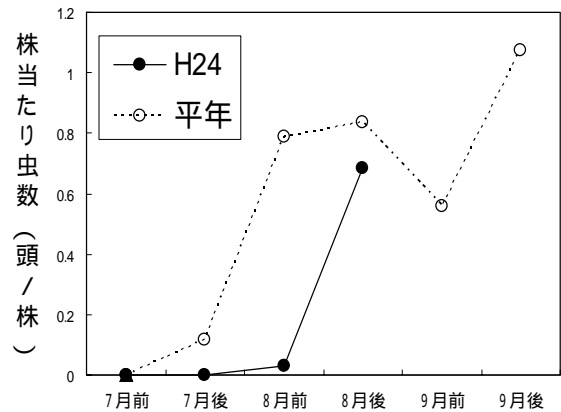


図2 大豆におけるハスモンヨトウの株当たり虫数の推移

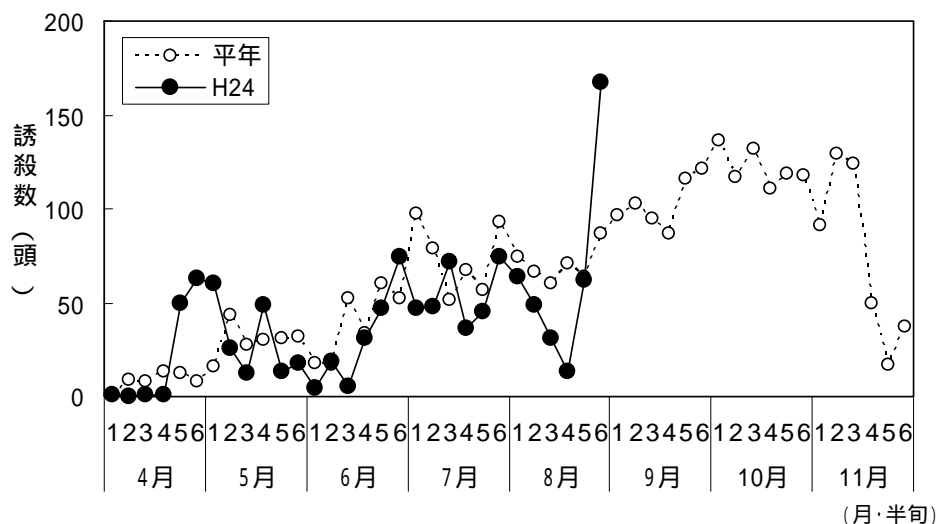


図3 ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺状況(諫早市小船越町)  
 平年: H14~23年の平均値(最大・最小値除く)

## 2. 防除対策

- (1) 大豆では圃場の見回りを徹底し、白変葉が散見されるようになったら早急に防除を行う。
- (2) 野菜類、花き類でも同様に、被害が見られたら早急に防除を行う。
- (3) 幼虫は齢が進むと薬剤の効果が低下するので若齢幼虫期に防除を行う。
- (4) 薬剤は虫体によくかかるよう丁寧に散布する。
- (5) 施設栽培では施設開口部を防虫ネット(4mm目以下)で被覆すると、成虫の侵入防止に有効である。

病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>

この情報に関するお問い合わせ

長崎県病害虫防除所 TEL: 0957-26-0027